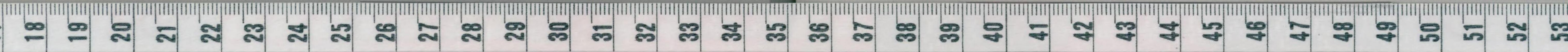


京  
7  
50

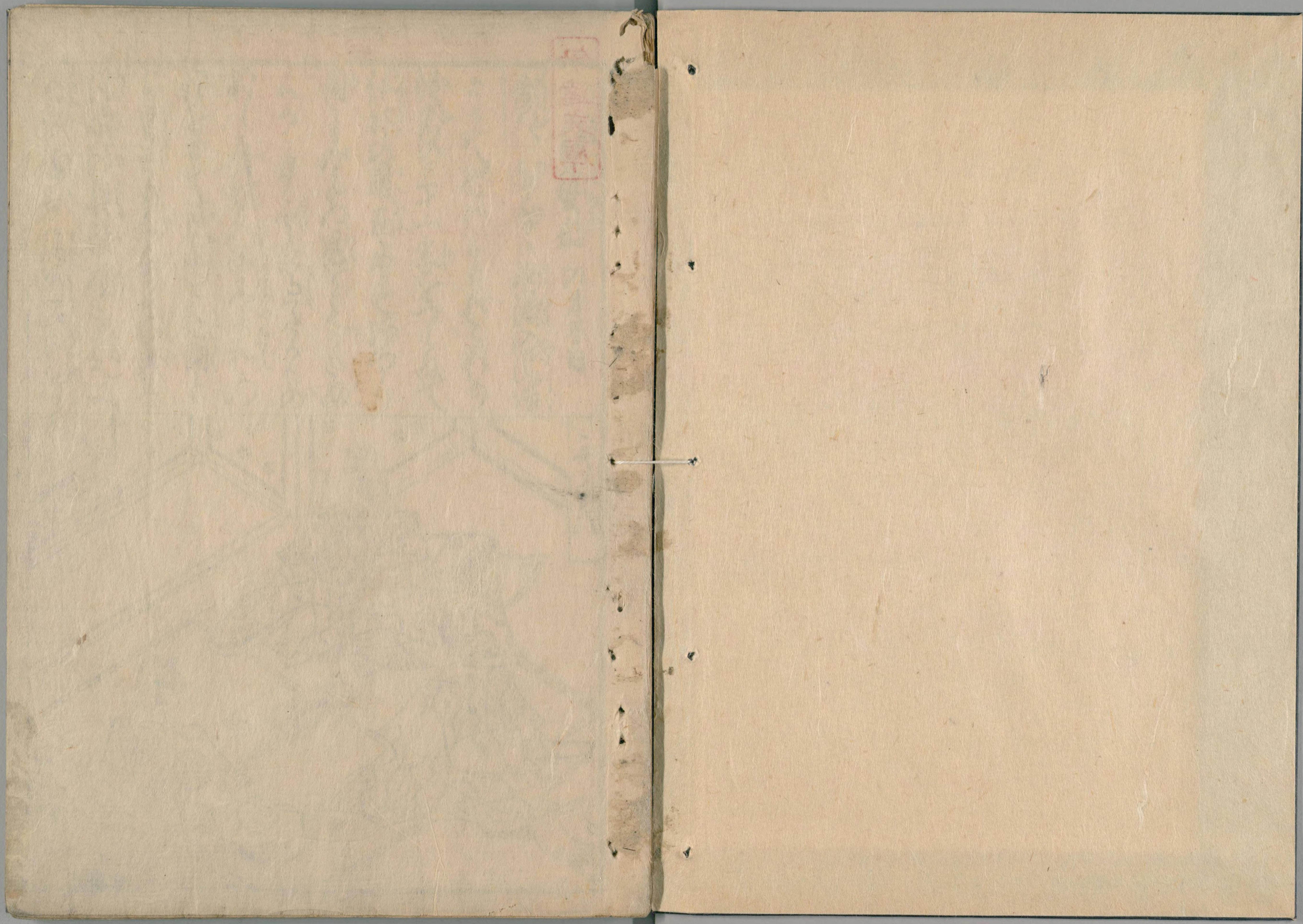
別 13  
58  
2



国立国会図書館 タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

ガラス使用

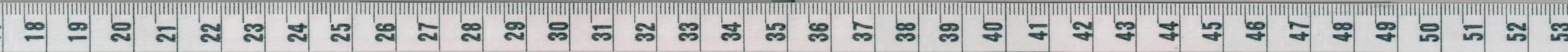




人倫訓蒙図彙

国立国会図書館 タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

ガラス使用





伊達文庫

伊達文庫  
伊達文庫  
伊達文庫

候名の三十一字とてねて  
佐竹の感念めも何なり  
同よみえの鬼とてくるぬ

形 彦村人お入よわら  
理とりて目なと和開と  
も男きりわあよあ義  
同候は奥雅願とれ又  
長方短方旋以濃中折

人倫訓

二人





白帶冠 非格未の海あり  
 神袂 秋菽 菽 菽 菽 菽  
 天地山川 草木 本名 歳末  
 のうんよんころまへもころ  
 と格としてつらねとし  
 りますまきく物よはひ  
 て情と迷るるまきく **有穢志**  
 本物本名ありて 秘道の創製  
 法わりのけはとあらうあま  
 人と有穢の人とのみ第一上  
 天子の法式より下 百友の  
 あらうひてあまの代わり

有穢志



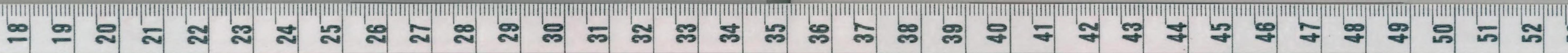
家より徳をたなを号  
 し 侍りの例と記録と  
 稱して和國のまきく  
 しあつと **詩人** 侍る人  
 よりねとねのけいよん  
 するもりのあまの同  
 しくを義ありのて分と八  
 白にけい一守のまきく  
 なまぬんは法式の侍る人  
 成あのみまきく  
 歌字の歌歌三守歌ホ  
 ろれ侍法のま枝かり

詩人



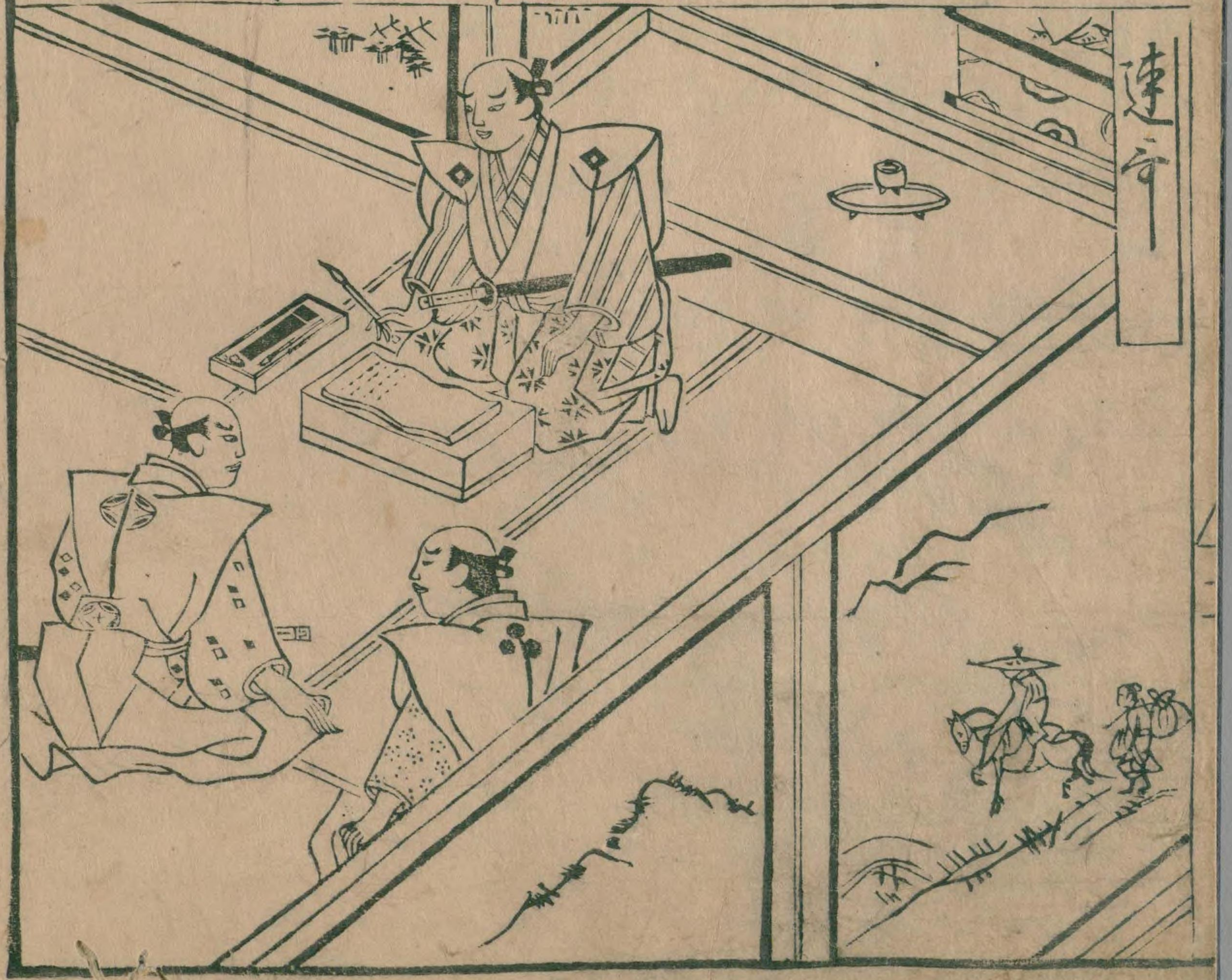
輓舟師

まきくひり





あつて名もなきなり月  
 本武蔵のひかりつくと  
 とそそりつくとつとつと  
 あらやけつと燭とつと人  
 ちとつとつとつとつと  
 方の花つとつとつとつと  
 隆承のひかりつとつとつと  
 つとつとつとつとつと  
 小ひらつとつとつとつと  
 師牡丹花つとつとつと  
 中は東の方のつとつと  
 け道堂つとつとつとつと  
 武蔵つとつとつとつと

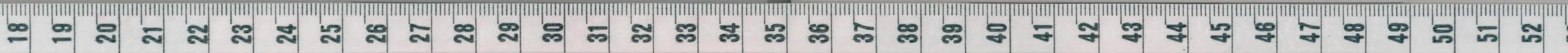


連年

やくはしつとつとつと  
 昌隆つとつとつとつと  
 孫承つとつとつとつと  
 とつとつと  
 師牡丹花つとつとつと  
 つとつとつとつとつと  
 隆承のひかりつとつとつと  
 つとつとつとつとつと  
 小ひらつとつとつとつと  
 師牡丹花つとつとつと  
 中は東の方のつとつと  
 け道堂つとつとつとつと  
 武蔵つとつとつとつと



連年

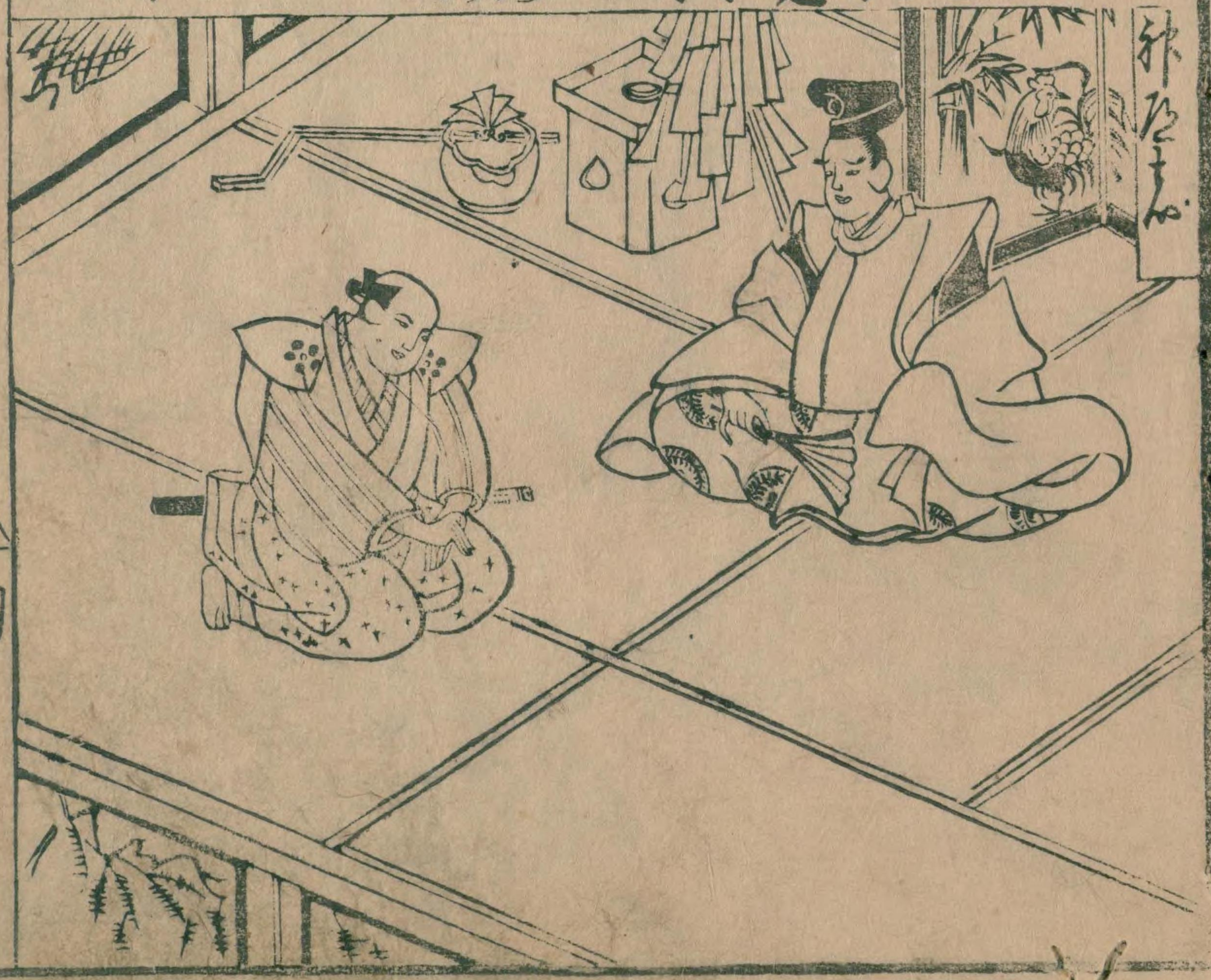




上坂も信長とつねの宗因を  
 思ひあひあつてしきさの  
 侍とらむらひとらぬよ  
 とて一風とちりりも  
 子ほくしんて女を風か  
 鞠 上たすまよは雲王と  
 りん外たあり替古人王  
 れを子と射殺しん改  
 とし子と首と鞠と射  
 て八人の善子にひこまむ  
 是嬉へ日本よれめて八用  
 此天守のし時よりま  
 かりまのりてあろびし



下あぐれはありこも徳と  
 つり家と花を井れ子を  
 りよ又かき我の科友松ト一  
 家一徳の信あり冠のひは  
 鞠の家花を井より下と  
 てかけらるゆい信家残ら  
 けありの門かたりのお家米の  
 下下格校務業末は法あ  
 下ありかつと松桐柳楊  
 かりお道指の横筆は道草  
 のうらりありまよひて  
 かりと遠くよの他家に  
 許はは鞠師の影所ぬる角





下ル丁行之屋たを室町ぬに  
 系下ル丁行居丸を所為丸  
 多の  
 多形常之ニ系を属少路  
 極虎や廣昌大坂のる修石  
 江戸京橋南式丁あかや  
 大馬石所十の棚松を為  
 同下行坐勤と東漢系加や所  
 神道者 日本神國を  
 心神なるとして國を  
 流あり本神欽明天皇  
 此神代々伝はるりてよ  
 つも神代おとくして傳學  
 ともまれるり神書教百



學者

ありといへども入廉が達  
 心の比渡でしとやを後  
 人教王曰神記と對義作  
 ありけ本神代の二本中  
 船の形記より今唯一神代  
 と記ありを根えの神代  
 かりとあ記あ合といふおハ  
 仙舟とりのつ神の書伝  
 しくまろへ **學者** 世伝学  
 志と神とつハ傷とといふ  
 かり孔子の授とせり仁  
 義礼智信の文と帝のり



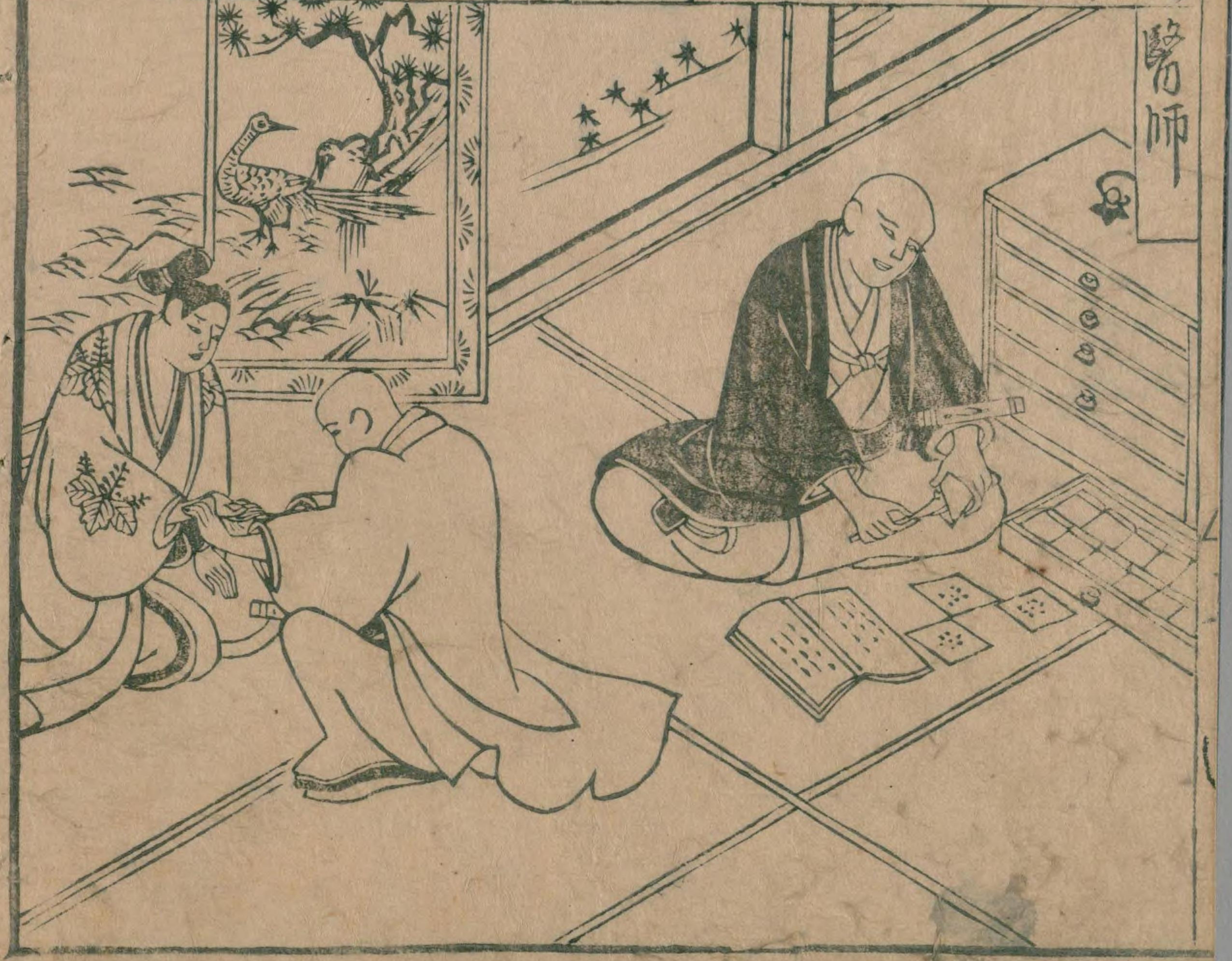
筆に志

人倫二

五



又傷のなきに人々の傷を  
 とせしめしむるは徳也  
 の道とて人の心をさへ  
 ひそく教へてゆくは  
 世の人の心をもさへ  
 育むる事なり  
**傷** 傷の徳也  
 帝の弟阿直岐王仁  
 備後守とてあるに  
 石海國の事あり  
 日本にて傷のなきに  
 うや **筆道者** 唐土乃  
 蒼顔の人の名とてみる字



とつりしむるは徳也  
 も多しとて字を  
 やとるに徳也  
 とつりしむるは徳也  
 王義子とてあるに  
 人々の心をさへ  
 とせしめしむるは徳也  
 世の人の心をもさへ  
 育むる事なり  
**醫師** 醫師  
 世の人の心をもさへ  
 育むる事なり  
 とつりしむるは徳也  
 も多しとて字を



18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53



六腑は海と云ふ事と云ふり  
 て業後と云ふは是れ醫の紐  
 引かり日本に在りては針代  
 此針は唐の命方病後  
 療治と云ふ針灸の書  
 と云ふ事ありははけゆ  
 日本にては少き命方と醫  
 針灸の書唐の命方の針  
 灸はけ針の業方あり  
 日本と云ふははけゆの  
 穀と云ふははけゆの  
 糸と云ふははけゆの  
 糸と云ふははけゆの  
 糸と云ふははけゆの

齒醫師

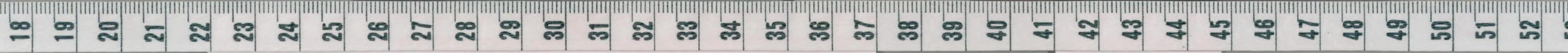


外科

針師 十日経

針師 十日経  
 と考て浮沈補得の術あり  
 打針接針後針ホあり  
 の術ありと云ふの針師と云  
 針師を云ふは是れ針師  
 眼の人身の一のありあり  
 左性の氣血の虚弱あり  
 りてと云ふくの眼病あり  
 らる切の事なり 按摩  
 醫書に云ふ保赤の針  
 よい事あり 針灸  
 小兒醫師  
 春後

金瘡

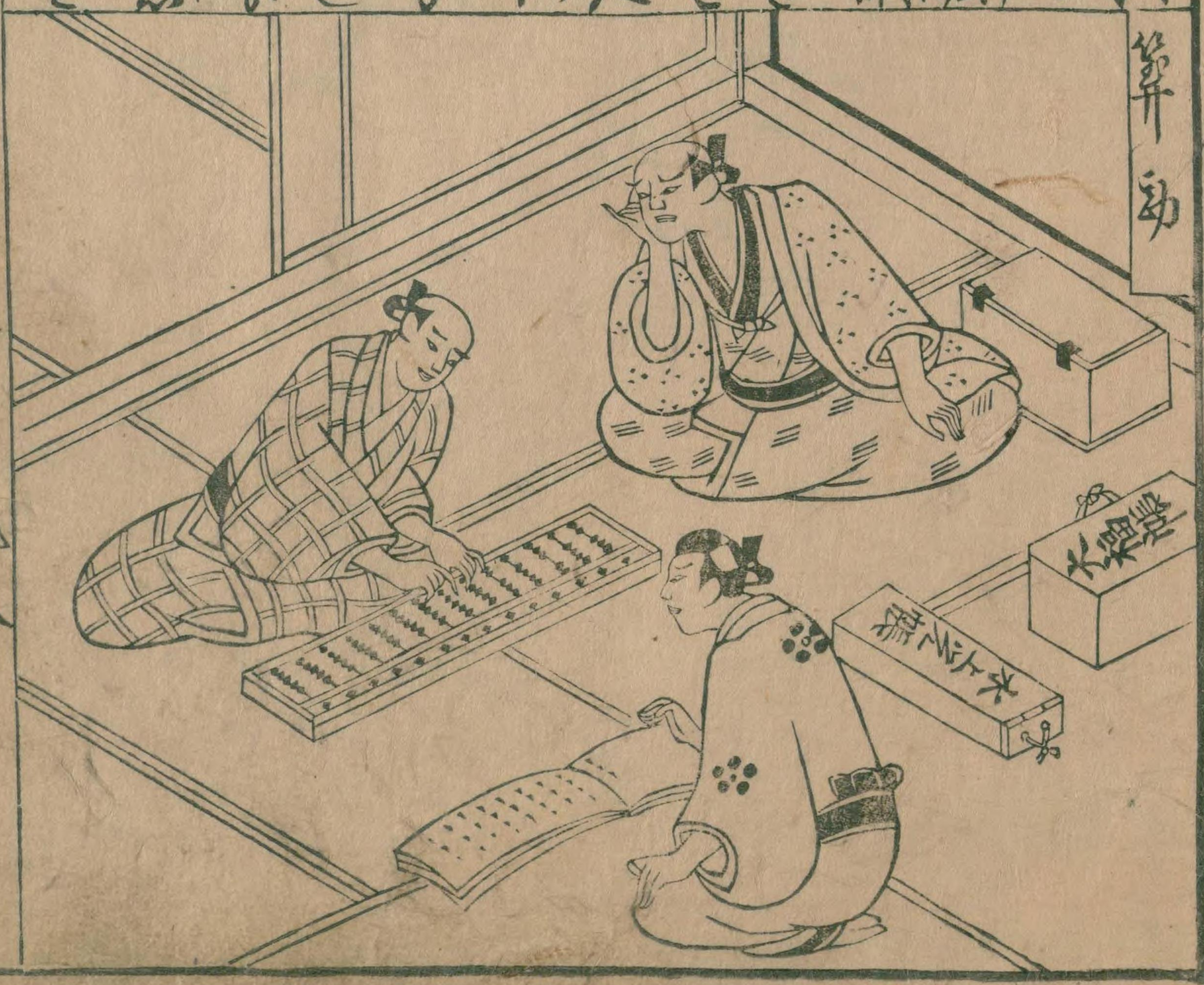




家のあつたあり 徳醫の  
 中じむいりまき方とく  
 ち後かみりこれの法陽と  
 しかちまき赤黒のあ  
 つとがらん業と利のは伝  
 わりことありと 菌醫師  
 本釣りとあてき湯の初  
 菌虫れ殺る葉と中書  
 生とてあつれ下あり金  
 康とありて 毒醫の家と  
 はけあは居後何あはは  
 つうりてあり 外科  
 外科 子出り 拾物と療



とりのゆへに外科と号は  
 外科 回春居士の釋書之  
 金瘡 子有るやか一切の疵  
 らは治療のほりけり人排  
 不親まして物よ親あて  
 けりては人への死  
 来あおれとそ金瘡の下  
 徳礼志 小笠原家  
 れは源毛武家の礼式に  
 て唐人よりのの礼法な  
 りそとて知人とな徳礼志  
 とらひは武法と敷方と





弓のありはまゝ射軍義  
 海の内侍より始まり  
**算都** 算都の在り方  
 法よきことにてまゝに  
 かり及まき妙僧作れ  
 とまのいづらやま地又運の  
 ひたを算都に於て是  
 とまのいづら山深淵と  
 してまゝにまゝに算都  
 町徳あり十倉留して  
 七五米よりらゑしと  
 むの算都よりあり十  
 倉留師 雨くぬ候と



弓

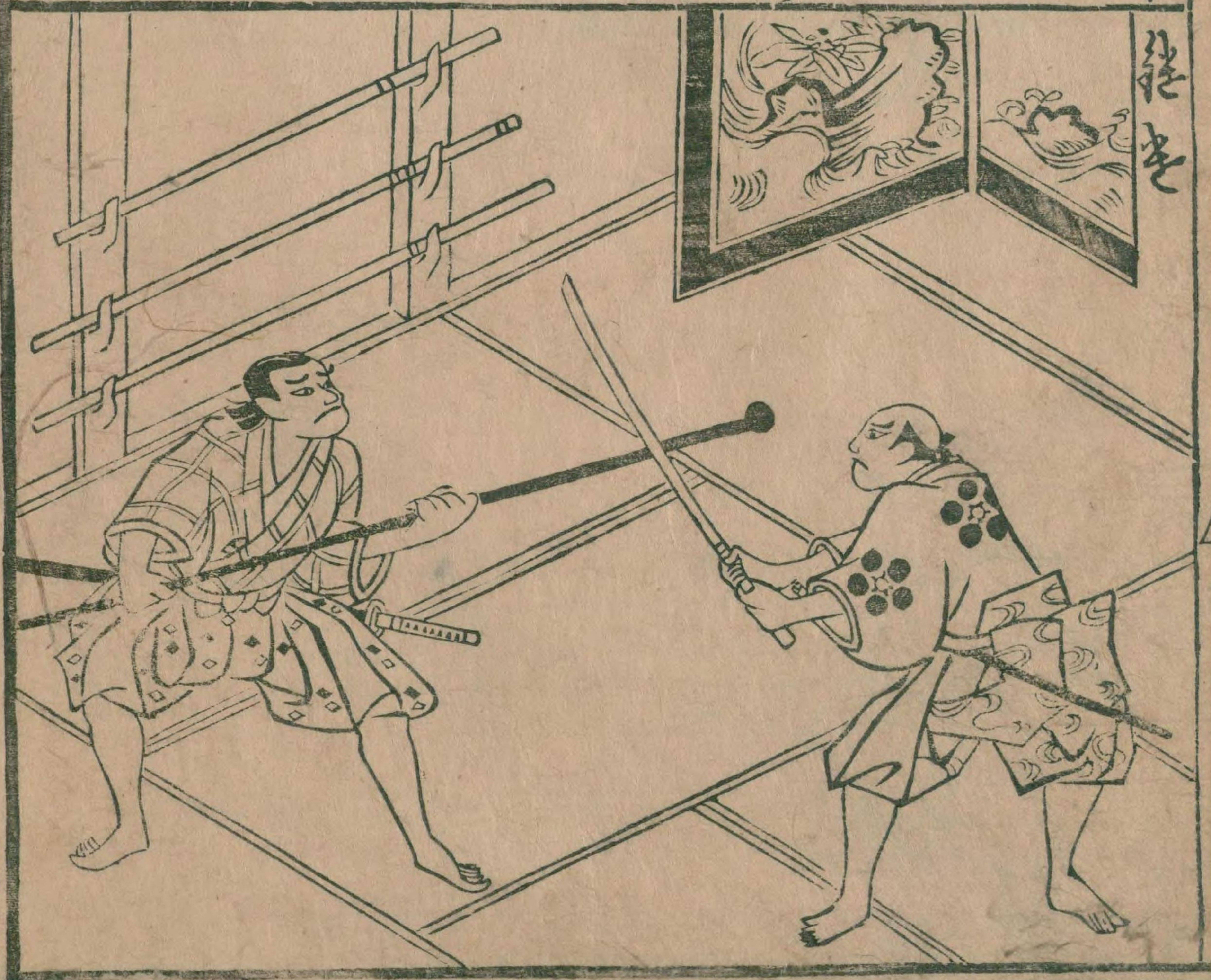
弓のありはまゝ射軍義  
 海の内侍より始まり  
 算都の在り方  
 法よきことにてまゝに  
 かり及まき妙僧作れ  
 とまのいづらやま地又運の  
 ひたを算都に於て是  
 とまのいづら山深淵と  
 してまゝにまゝに算都  
 町徳あり十倉留して  
 七五米よりらゑしと  
 むの算都よりあり十  
 倉留師 雨くぬ候と



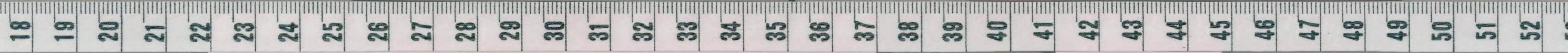
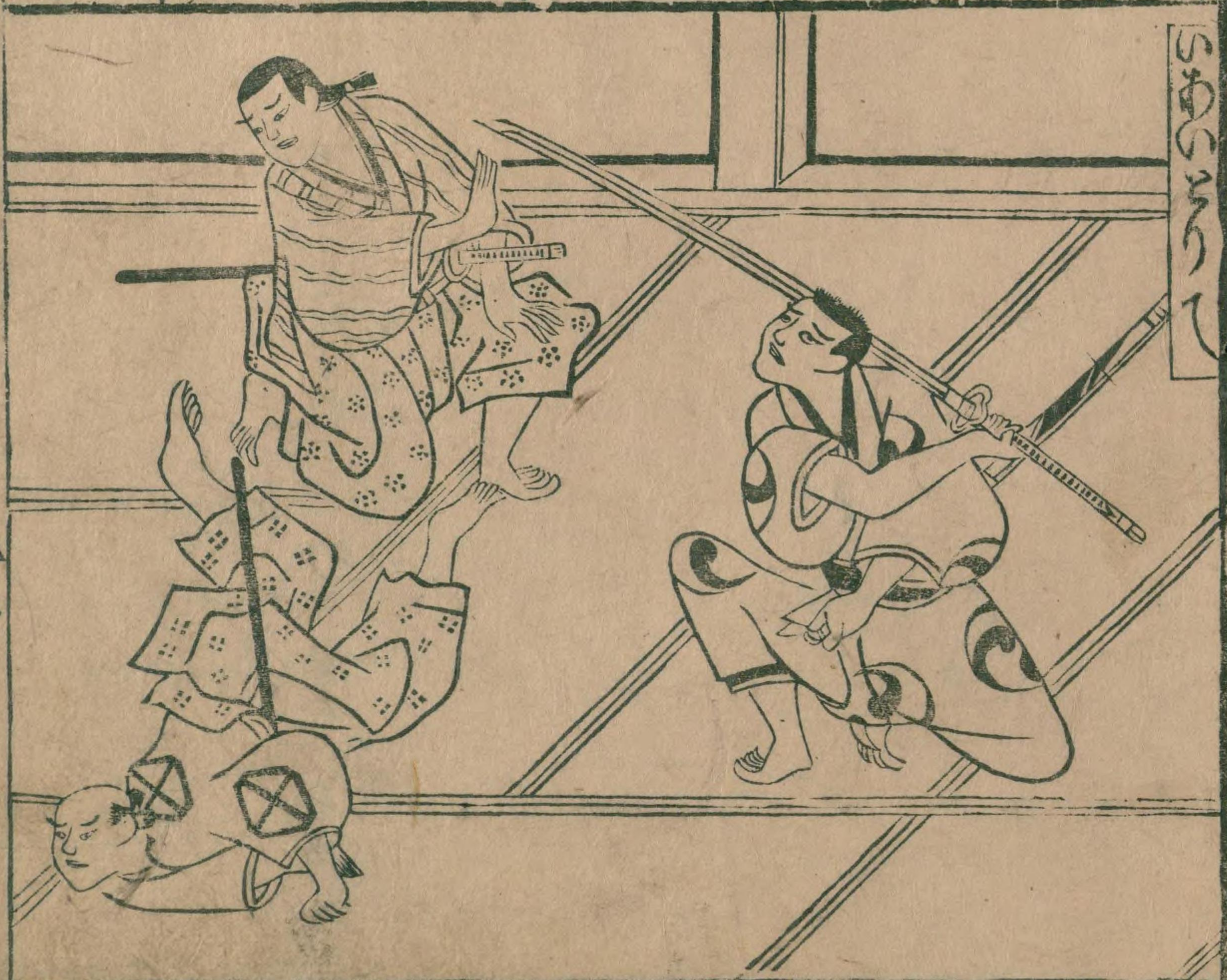
馬



本館の標は堂の後白川  
 院の西建立にてる御下  
 口分給のち七人三寸抄書  
 科形もてちち一丈は八分  
 科形のもて八分三寸五分あり  
 南の源のち七人三寸五分  
 て少むむひて射を御を  
 母宮の勢者なり宿文  
 九年又月二日の尾川軍勢  
 幼たらぬ矢八千越矢一万  
 又四百十二本今九紀別和佐  
 大八節矢下越矢八千百二十  
 三取越矢一万二千又十二



中なり なる業 業の流  
 是と業流とのちのちの世に  
 一の守をまゝとせよと上  
 大の目まよひてはま  
 後馬の酒にる湯高あり  
 ありとてとてとてとてとて  
 入の世にとてとてとてとて  
 不知れし百世ありの外軍  
 三百年の業やう約とて  
 れ曲とてはまははははは  
 てむりしもの八業流あり  
 古よ大塔の一流あり今よ





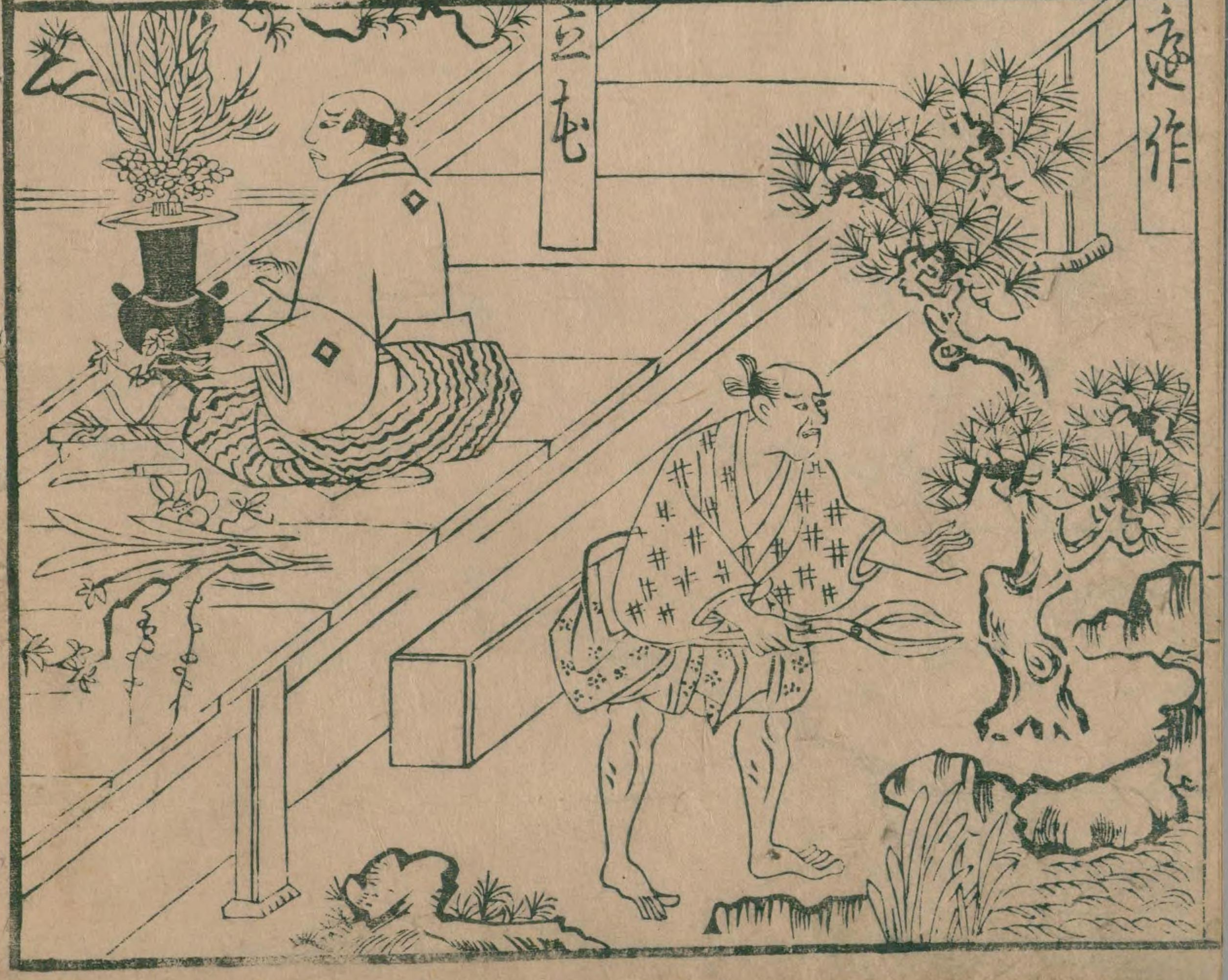




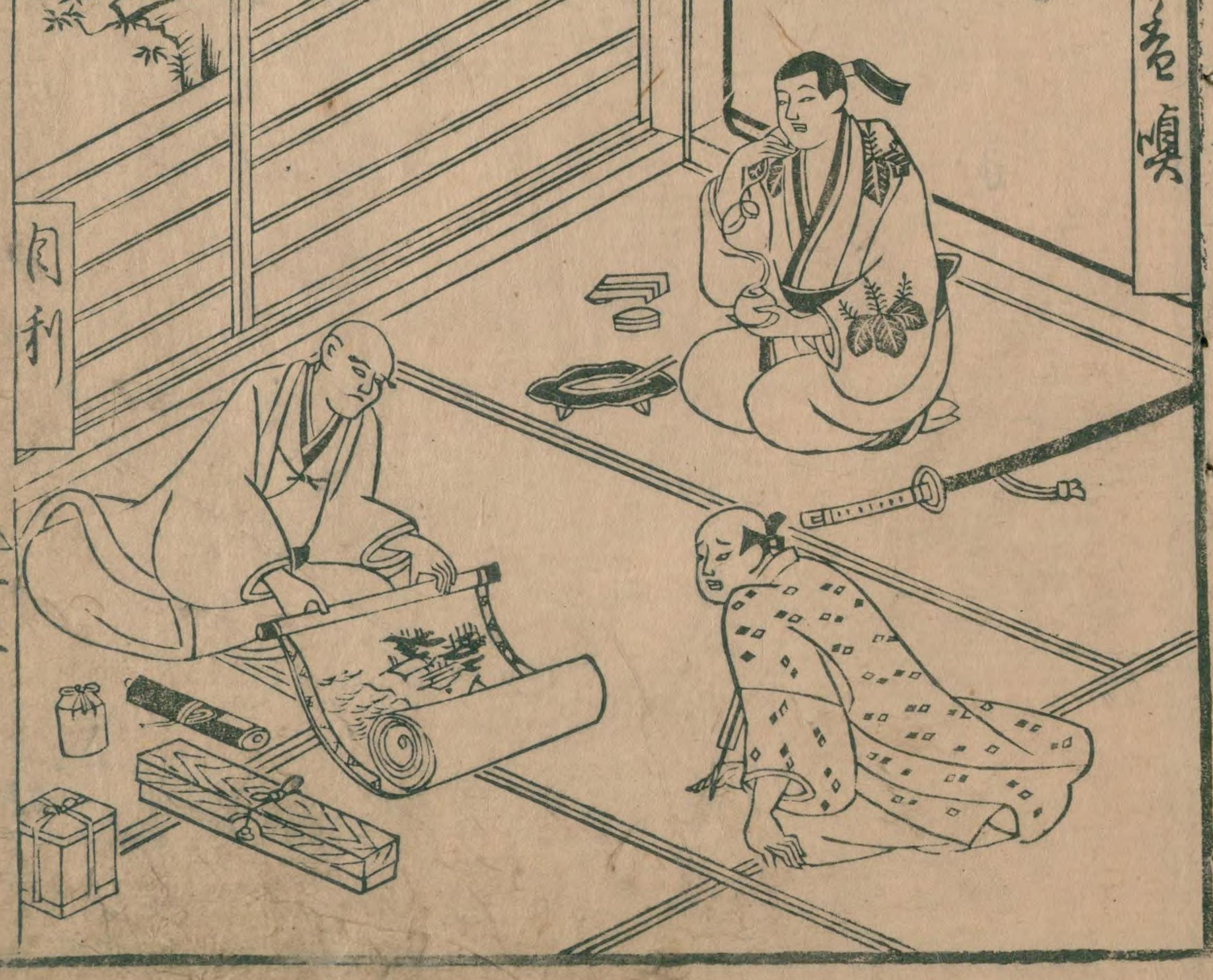




とう海行のころや日本に  
 わてハ文孫のはやまわまの  
 く海布せり編箇一まは  
 とりふまけたのふ道と  
 てはさるるや一も後大筒  
 小筒ホあこのはさるれ  
 しては又大款とらう此軍  
 驚たより **馬醫** ころ驚と  
 白ふとらふはさるる白星の  
 つらとらふはさるる夜も  
 あて孫陽そのか人さる  
 病とらふ針灸業のた  
 とうむ黄帝れゆとら



て病との痛とらとこのゆ  
 つらとらふはさるる白星の  
 兵とらふはさるる **軍法者**  
 軍法は七書とらふはさるる  
 たり一團幕のらとらあり  
 あてとらふの強弱とらあり  
 地を温めとらふはさるる  
 時々の製とらふはさるる  
 出とらふはさるるはさるる  
 取付あびの秘術かけひ  
 の軍記とらふはさるる林の  
 ともめとらふはさるる軍法とら  
 の第一とらふはさるる上とらふはさるる





今

熱湯都

じうより

ありゆるれもはむすあ  
 つまね敷きとすしんより  
 敷き屋圍の葉草とと  
 つらひ後入八葉草の極  
 ちう料理梅乃家  
 いりもてこまやふり  
 ねり利体とりや中興  
 とく田織ア小堀き江  
 海ありあり柔和と  
 もいんをくは人倫のま  
 りり依ととる人の一册  
 今もあつたあつた

碁



お碁

庭遊

魏山又の候

りのむしよりきて久  
 さもあつたひなり多志  
 園師自徳の敷きよて  
 けんの候ありあつた  
 寺は庭遊園師作より  
 八をよめよめ入庭遊  
 武わりの宮大玉石産  
 加みん石産やに  
 わり寺法在家れ作や  
 尾尾産あつた  
 と福貴産あつた  
 りのむしを面といふ

茶人





ひけあそびといふは同ぢり  
 珠山と云ふ山を平字に作り  
 池坊と宗匠といふ  
 頂法寺と云ふ寺にあり  
 代にお務めて一かゝり  
 毎旦七月七日二里の  
 のまらぬ心をおおひて  
 中れをさし給ふ  
 てそととらるゝりは  
 丸傳まゝと云ふ世より  
 丸傳まゝといひり  
 圓基  
 圓公の徳と目々にあり  
 るの若徳大信油船の



持来りて徳の徳といふ  
 ひまのひまの徳といふ  
 と云ふ一に百なり九月  
 日教九月の星は九臘星  
 の星はなりといふ星と  
 家なり其星の徳といふ  
 六寸半一尺四寸廣一尺  
 三寸八分一月のあい七分  
 世其所は陽系極といふ  
 毎上丁寂光寺の内本  
 盤と云ふ二の二条  
 町のあそびは通堀  
 大坂と云ふ所の裏門

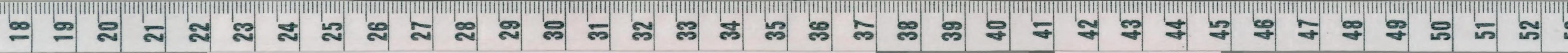
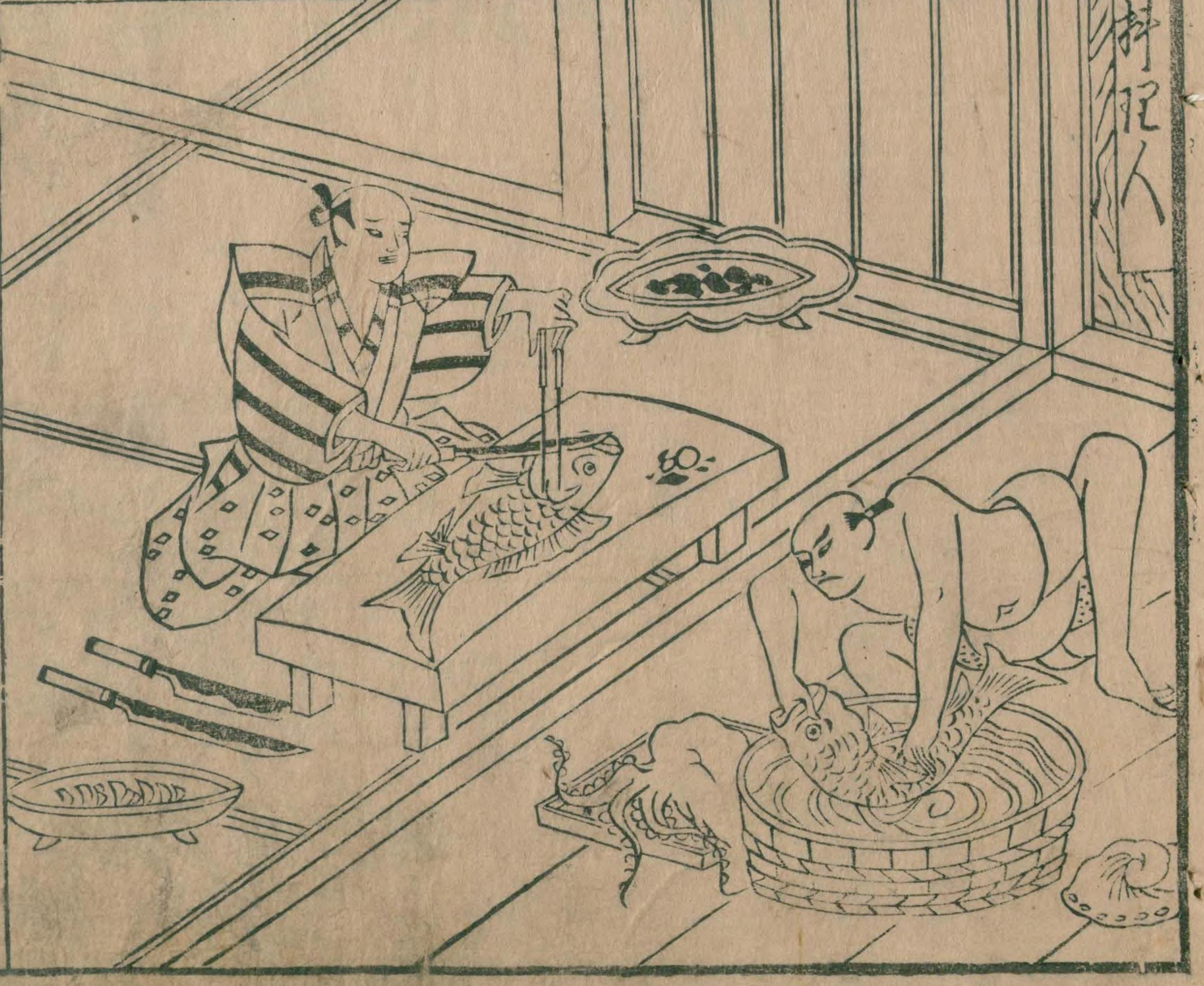




系所毎三系下ルニ丁目よる  
 江戸盤代亦南信乃所寄也  
 町新西留所 **お茶** 園  
 帝宿あつて長下王慶より  
 ららむむむと軍治の徳く  
 をせよ味布ひつと小茶  
 とのふまお中お茶お茶  
 のはあり茶よ同く存後  
 のお茶お茶お茶お茶の舞  
 の廣中お茶お茶お茶  
 十まへお茶お茶お茶  
 くらんお茶お茶一家あり  
**双五六** 阿育王の徳又ハ



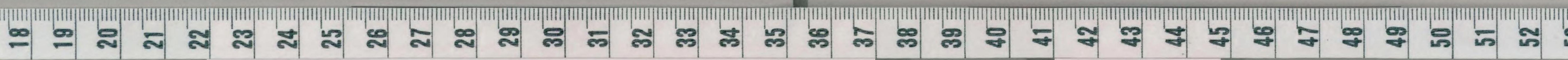
お茶の子建徳とも同  
 中ハ天陸年中に海  
 盤代に在りてお茶  
 八分にお茶してひらこ八分  
 十二月にお茶あつてお茶  
 二月十二の月にお茶  
 人のにお茶いよかこりよ  
 三候にお茶けは陽はあはる  
 うらんでにお茶お茶を  
 一册とお茶お茶お茶  
 ありお茶お茶お茶  
 さのありお茶お茶  
 よお茶お茶お茶





分切切りに其のりてありしもの原成りたるあり  
れはよくと目とこの終あり **香嗅** 香の透るるの終を  
感念せしと人として優美あり先法淨潔の徳あり徳  
字赤梅相蘭本意あり日本ありありありありありあり  
在冊初巻に香木法の名ありありありありありありあり  
号に **同利** 万此無雲紅屋園よよいといふくの日利  
是守室の人のありたりよりよりよりよりよりよりより  
あ世の目利観に本師光叔曰光願極和自仙本師光  
ま、まありありありありありありありありありありあり  
軒江所 留山牛鹿をわき雲隠ハ玉屋田斐友成十  
たら和川東海寺云法法にり別座中兼法法物ハ文字や  
る兼福田持たりる野長たら大和を十たら法道具江字兼  
角一丁月片金道悦兼房所本本をたら **兼不** 不人

度出よりり海たり樂洞妙なるり仏律と感や人  
傷と和んよとぬ志むりり法ありなりとて一切の  
急ととる後人と人ともとり法ありありありありありあり  
白たふの家の城よりりありありありありありありあり  
極王の作也日中しての聖徳太子ありりりりりりりりりり  
として日本よありありありありありありありありありあり  
子ありしと徳とありありありありありありありありありあり  
中後たら **琴** 現るの儀の作らあり二十五結ありしと  
羽とりの結多ありありありありありありありありありあり  
えんたりよりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
ちんとして万れ律ありありありありありありありありありあり  
てりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
のじりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

















京  
7  
50

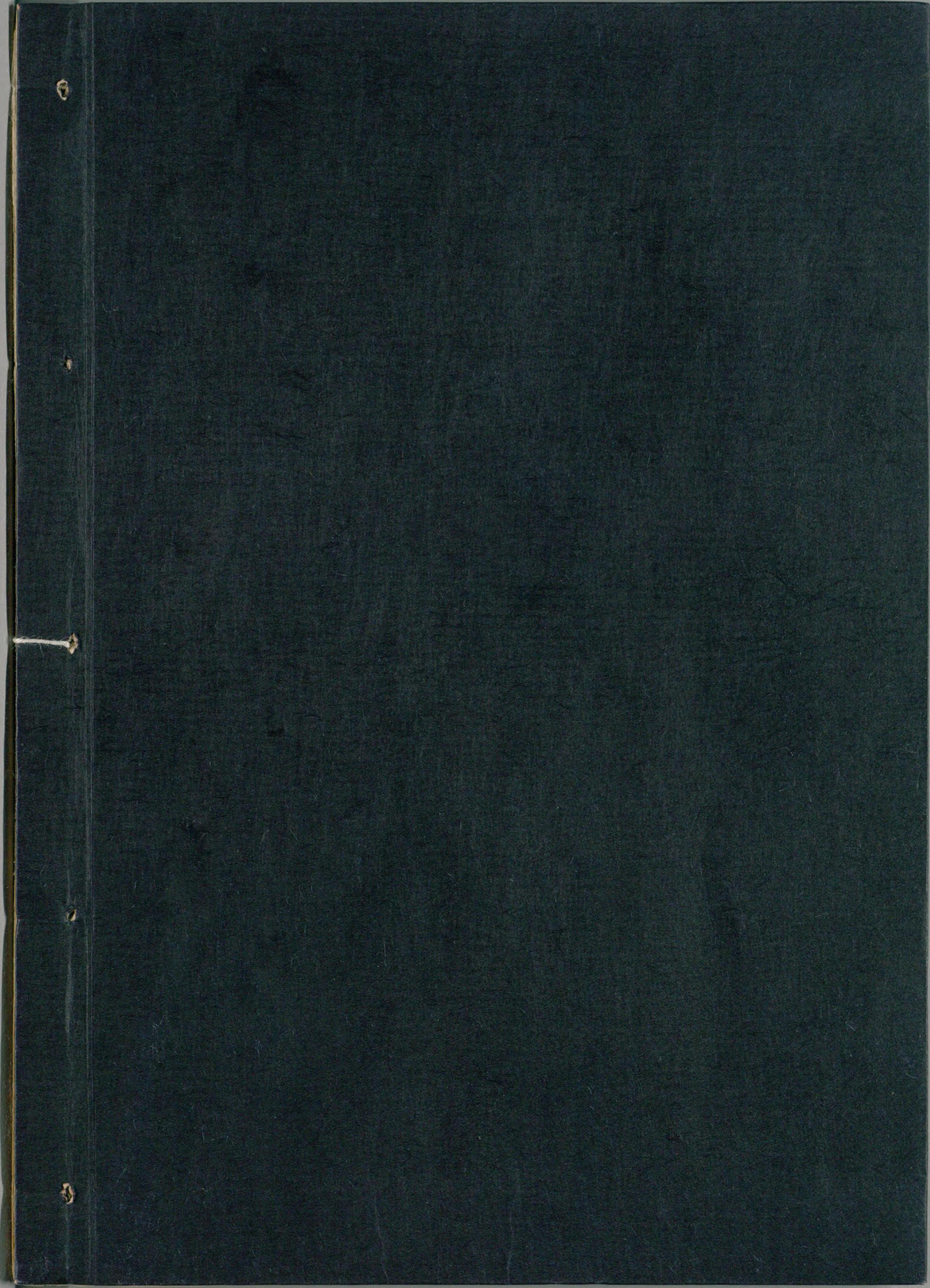
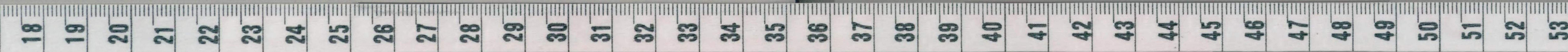
沖あ 光孝天皇の  
沖子由良のあよら  
まるといふをのわりこ  
もはつてこのあつて  
とあつていふけなまの娘  
子よ琴三瓦線とあ  
ゆれいみのちちあやま  
たこのあなり











国立国会図書館 タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

ガラス使用